

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhou_detail_2016_007_kani=true&jigyosyoCd=0190501361-00&PrefCd=01&VersionCd=007

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスを利用して、入居者様にもたくさんの体操、脳トレなどのレクリエーションを提供しています。行事、外出も計画的に行っています。隣接の病院が運営母体であることから、入居者様の体調不良の際は、内線やメールで連絡を取り合い、早めの対応がとれるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市地下鉄東西線大谷地駅から徒歩圏内の利便性のよい住宅地にあり、法人グループの病院に隣接した2階建て2ユニットのグループホームである。2015年1月に開設したばかりで、建物内は1階と2階は異なるが落ち着ける配色を施し、廊下は車いすが交差できるほど幅広く全体的にゆったりとした作りである。運営母体は医療法人で、地域医療に長く貢献しており、地域では欠かせない病院を中心とした法人グループである。事業所は、法人母体の病院と24時間体制の医療連携を構築しており、災害対策の緊急体制もグループ内の連携が築かれている。事業所の理念が「笑顔あふれる生活の支援」とあるように「笑いヨガ」を職員が学んで実践しており、脳トレなどのレクも行い、笑顔で明るいグループホームである。地域における認知症高齢者の介護事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (with sub-rows 1-4), 項目, 取組の成果 (with sub-rows 1-4). Rows 56-62 are visible.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、各ユニットでケア会議を行い、その中で理念を唱和するなどして、共有、実践に繋げるようにしています。	理念は事業所内に掲示し、管理者と職員は、共有し、意識づけていくために各ユニットでのケア会議や月1回行われる全体会議で唱和し、振り返りを行ってケアに反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食などの外出や、近くに開園した保育所との交流が増えました。	日常的に散歩やコンビニへ買い物に出掛けた時などには挨拶を交わしている。また、地域の老人クラブの活動内容を聞き、交流を深めるために参加できるよう調整中である。	新しく開園した保育所との交流が始まり、利用の楽しみが増え笑顔も見られると思うが、町内の老人クラブへの参加や北海道保健福祉部の「認知症高齢者100番の家」に登録申請するなどして、地域への関わりを深めていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様、物忘れ外来や、認知症カフェのパンフレットの配布や、今年度からは、認知症家族の会を発足して、地域と共に認知症の人の理解を深めていけるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族様、地域包括、老人クラブ、消防団など毎回参加していただけるようになりました。その中で意見を参考にして運営に繋がっています。	家族、老人クラブ会長、地域の消防団副分団長、地域包括支援センターの職員が参加して2ヶ月に1度開催されている。会議では、事業所からの報告のほか、参加メンバーから質問・意見・要望などがあり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ運営推進会議議事録や広報の配布などを行い、又、社協のボランティアの受け入れ相談など、協力関係を築くようしています。	地域包括支援センターの担当者に、事業所のお便りで利用者の暮らしぶりやケアサービスの取り組みを伝えるようにして、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿って職員全体が周知しており、研修も行っています。	身体拘束に関する勉強会を事業所内で実施し、身体拘束をしないケアの理解と実践に向けて取り組んでいる。センサーを使用している利用者はいるが、介護計画書に記載し、説明・同意をもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や、勉強会などで虐待の知識を身につけ、虐待の無い介護に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うように心掛けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会時の意見を聞き入れて改善をしています。こちらから声を掛けることも心掛けています。	家族には2ヶ月に1度ホーム便りを送付して利用者の様子をお知らせし、意見・要望などを聞くようにしている。法人で認知症家族の会を発足し、運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や勉強会で、スタッフの意見を聞き、出来るだけ反映する様にしています。	月1回各ユニットで会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、都度職員に声かけて聞き出すようにしており、年に1度は個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年同様に、処遇改善交付金を通じて、給与水準の適正化を図り、福利厚生等の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や特性に応じた研修への参加を促しています。又、法人内から講師を要請して、新人向けの研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	なかなか機会を持つことが出来ずにいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症で自分の意思を伝えることが困難な入居者様が多いので、表情や行動で観察を行い、安心の確保をするための関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とは、必ず面談を行って意向を伺い、良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談時に、意向を聞き出せるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、出来ないことを支援する事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いていると思います。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事にも家族様に相談して、一緒に考えていくようにして良好な関係づくりを心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の面会は快く受け入れていません。電話の支援や手紙のやりとりの支援も行っています。	家族・兄弟・友人はよく来てくれる。受診の帰りに家族と一緒に以前行っていた喫茶店に寄ったり、蕎麦屋、墓参りなど家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係を保てるように、スタッフがサポートするように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様に、認知症家族の会に参加していただくなどしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用して、入居者様や家族様の要望を聞き、思いや意向の把握に努めています。	家族のケアの要望を聞き、担当者を中心に日々のかかわりの中で、本人がどのように暮らしたいか意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話や、家族様からの情報の聞き取りにて、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や毎日、朝、夕の申し送り等で把握して共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者様の意見や要望を聞き、又、家族様の意向やユニット会議での検討により、入居者様の現状に即した介護計画を作成しています。モニタリングは、3か月サイクルで実施しています。	本人・家族の意見や要望を聞き、反映させるように月1回のユニット会議で検討して作成している。設定した期間での見直しはもちろん、変化が生じた場合にはモニタリングに基づいた計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はありのままに正しく、明確に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や状況に応じた、柔軟な支援やサービスに取り組むように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の障がい者就労支援施設へ昼食を一緒に取りに行ったり、近所の保育園に行ったり、近くの店に買い物に行ったり、暮らしの支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の訪問看護と隣接する協力医療機関との連携で、適切な医療を受けられるよう支援しています。又、今年度から、月一回の往診対応も始まりました。	協力医療機関から月1回の訪問診療があり、緊急時には24時間体制で受け入れてくれる。受診は、家族と協力して通院介助をし、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、受診時の情報や、往診時の情報を的確に伝え、指示に従い支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めています。入退院時には、病院関係者とカンファレンスを行うなどしてしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	24時間の医療連携体制で重度化や終末期の支援に取り組んでいます。契約の際に説明させて頂いています。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできる事を入居時に説明し、同意ももらっている。隣接の協力医療機関と24時間体制で連携しており、本人・家族と話し合いを行い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的心肺蘇生やAEDの勉強会を行っています。新人スタッフには早期に対応しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。この10月には家族様の参加をお願いしています。	消防署・消防団の指導、協力の下、年2回避難訓練を行っている。職員は、避難誘導が出来るように指摘を受けた点を次の訓練の課題として取り組んでいる。地域や家族には協力体制を築けるよう、訓練参加のお願いをしている。	避難訓練を消防署に指導の下、定期的を実施しているが、地域の方や家族の見守りなどの参加協力を得られるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にスタッフ間で気が付いた点を注意し合いながら対応しています。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう、職員同士で日常的に確認し合い、事業所内で研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞いたり、選択肢を与えるなどして、自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに合わせた対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容の利用を行っています。衣替えや、好みの衣服の選択をしていただくなどの対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者様には、積極的に準備や後片付けを手伝って頂いています。	とうきびの皮むきや山菜の下ごしらえ、後片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。季節に合わせて、節分には恵方巻、秋にはかぼちゃ団子を作ったり、また、出張の握り寿司やラーメンなどで食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食チェックを行い、不足の際は訪問看護師に指示を仰ぐなどの対応を行っています。食事形態を変えるなどの対応も随時行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援しています。又、訪問歯科を利用する入居者様もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をもとに、排泄サイクルを把握してトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	日々の排泄チェック表から職員がパターンを把握して、さりげなく声をかけトイレへ誘導している。また、表情や仕草などからも気づくようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分の促し、又、食物の工夫を行ったり、訪問看護師に指示を仰ぐなど予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に浴った支援をしている	一応の入浴日は決めているものの、日々、個々の状況に応じて対応させて頂いています。	週2回入浴できるようにしているが、体調や気分によって対応している。毎日入りたいという希望にも答えている。また、1階には椅子のまま入浴できるリフト浴もあり、配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、日中も臥床時間をもうけたりしています。昼夜逆転にならない様な支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ個々に、薬情の確認を行い、又、副作用などについて勉強する様に促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共用型デイを利用して、レクや、脳トレ、様々な体操を取り入れて、楽しめる支援を行っています。散歩や、日光浴などで、気分転換が出来るように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーや近隣病院の売店などに、希望に沿って同行支援を行っています。家族様の協力で旅行や外泊の支援を行っています。	希望に応じて日常的な散歩や、近くのコンビニへの買い物に同行して戸外へ出かけられるよう支援をしている。外出行事ではお花見やスーパーセンター、テレビ塔、ぶどう狩りなどにも行っている。	季節に応じて外出行事を行っているが、職員同行だけではなく、家族の協力による旅行や外泊などの外出行事も積極的に検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や、受診などの際は、預り金の中から、ご自身で支払って頂くように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によって電話を繋いだり、手紙の投函等の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃や、玄関に花壇を置いて季節感を取り入れるように工夫しています。廊下には、共用型デイで作成した季節感のある作品を飾っています。	食堂は、食卓テーブルを端に寄せると広いスペースになり、楽しくレクをしたり、時には静かにくつろぐ場になっており、室温も程よく保たれている。廊下には歩行の妨げになるようなものではなく、安心して移動できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、自然と入居者が集まる空間となっており、馴染みの入居者同士が会話されたり、それぞれTVを観たりと、思い思いの居場所が出来ています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具や、仏壇を持ち込めるように配慮しています。	居室には作りつけのクローゼットがあり、持ち込んだものが収納でき、また、洗面台とベットも設置している。居心地よく過ごせるよう、使い慣れた家具や仏壇などの配置は本人と相談しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、バリアフリーで安全な環境づくりをしています。迷わないでトイレに行けるように、大きく書いた案内を貼るような工夫もしています。		